

# りそな 経済フラッシュ (ECB <欧州中央銀行> 理事会)

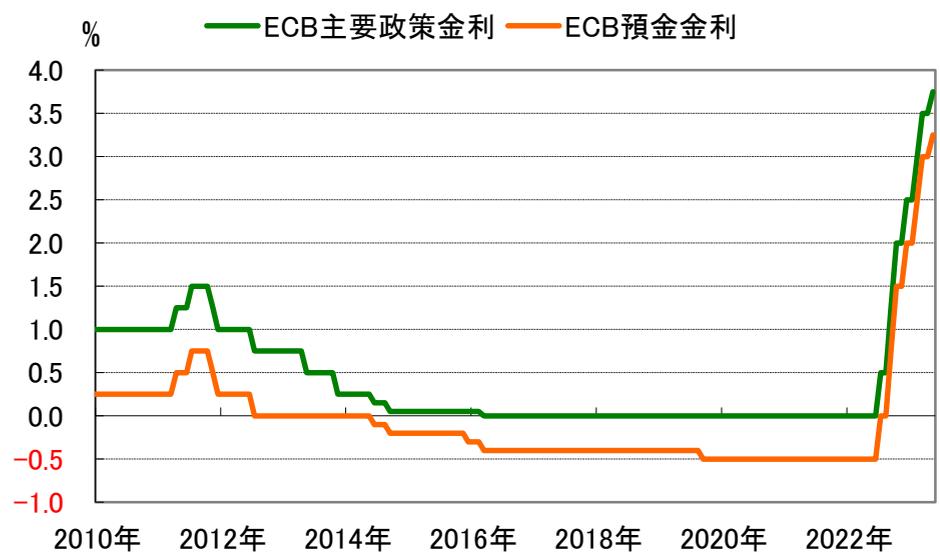
◎注意事項をよくお読み下さい



## ○概況

- ◆ ECBは5/4の理事会で7会合連続での利上げを決定。利上げ幅は0.25%に減速した（前回までは0.50%幅）。
  - ◆ ラガルド総裁は記者会見にてインフレ率が高止まりしていることを指摘し、「利上げは停止しない、それは非常に明確だ」と明言した。
  - ◆ 前日のFOMCにてFRBが利上げ停止の可能性を示唆したのとは対照的なタカ派姿勢であり、EURの下支え要因となる。
- ✓ 5月4日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では7会合連続での利上げを決定し、預金ファシリティ金利を3.25%、主要政策金利を3.75%、中銀貸出金利を4.00%へそれぞれ引き上げた。ただし、利上げ幅は前回（3月）までの0.50%から0.25%へ減速し、大幅利上げ路線からは修正した。
  - ✓ コロナ・ショック後の量的緩和で膨らんだバランスシートの縮小に向けて、ECBは6月にかけて再投資規模の縮小（QT）方針を策定していたが、今回の理事会にて7月以降の再投資停止を決めた。保有債券の満期償還に合わせて保有資産規模は縮小し、金融引き締め効果が生じていく見込み。
  - ✓ ラガルド総裁は理事会後の記者会見にて、インフレ率が高止まりしていることを指摘。「我々にはやらなければいけないことがたくさんあり、利上げは停止しない、それは非常に明確だ」と明言した。
  - ✓ 前日のFOMCではFRBが0.25%の利上げを決定した一方、追加的な利上げに関する文言が削除され、パウエル議長も「利上げは終わりに近づいている」と発言する等、利上げ停止の可能性を示唆。ECBはこうしたFRBの姿勢とは一線を画した。ユーロ圏では未だインフレ率が10%を超えている加盟国もあり、タカ派姿勢を継続する必要があると見られる。
  - ✓ 米国では新たな地銀の破綻が決定する等、金融システムに対する不安は根強い。ラガルド総裁はユーロ圏の銀行システムは強固であると強調しているが、ユーロ圏の銀行でも与信判断の厳格化の動きが指摘されている等、欧州にとっても無縁の問題ではない。一方、今回の理事会では0.50%の利上げを主張したメンバーもいたことが明かされており、高止まりするインフレ率と経済・金融の安定との綱引きの状態は続く。利上げの継続は短期的にはEURの下支えとなるが、今回の利上げによりECBの政策金利はリーマン・ショック以来の高水準に達し、中長期的にユーロ圏経済へのストレスになる点は注意が必要だろう。

## 【ECB政策金利と預金金利】



## 【ECBスタッフ見通し（3月時点）】

	2023年	2024年	2025年
<b>実質GDP成長率</b>	+1.0	+1.6	+1.6
12月時点の見通し	+0.5	+1.9	+1.8
<b>HICP（消費者物価）</b>	+5.3	+2.9	+2.1
12月時点の見通し	+6.3	+3.4	+2.3

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。